

研修報告/アーク溶接等の業務に係る特別教育

酒見, 亮佑
九州大学応用力学研究所

<https://hdl.handle.net/2324/1956613>

出版情報 : 九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 19, pp.56-56, 2018-10. Research
Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

研修報告／アーク溶接等の業務に係る特別教育

酒見 亮佑

1. 出張・研修等の名称

アーク溶接特別教育

2. 開催場所・開催期間

開催場所：日立建機教習センター福岡教習所

開催期間：2017年8月18日（金）～2017年8月20日（日）

3. 出張・研修等への参加目的

アーク溶接に関する基礎知識や各種装置の取扱い方法、一連の作業手順の習得。

4. 出張・研修等の概要

アーク溶接に関する業務に携わる者は、法令により特別教育の受講を義務付けられている。そのため、日立建機教習センター福岡教習所にて、3日間にわたり特別教育を受講した。本講習会の参加者は10名で、学科および実技形式で行われた。講習時間は計21時間で、そのうち学科が11時間、実技が10時間であった。以下に、講習の詳細について記す。

初日と2日目の午前中に「アーク溶接に関する基礎知識」「各種装置の取扱い方法」「溶接の作業方法」「関係法令」「災害事例と防止策」に関する学科が行われた。2日目の午後と最終日には、被覆アーク溶接機を使用して「アークの発生」「ストリングビードおよびウィーピングビードの形成」「ビードの継ぎ方」「ビード終端部のクレータ処理」「下向突合せおよび水平すみ肉溶接」に関する実技講習を行った。なお、作業は一人ずつ行い、作業後に講師から指導を受ける流れで進められた。また、自身の順番でないときには、他の受講者の作業風景を見学した。全日程終了後、修了証書を受け取り、解散となった。

5. 所感

多くの災害事例を紹介され、溶接作業には感電や火災などの危険が潜んでいることを学んだ。また、作業時に発生する粉塵を、長年にわたって吸入したことが原因で罹患した事例も少なくないことも知った。事故や疾患を最小限に防ぐためにも、正しい服装の着用や換気などの対策をとると同時に、できるだけ一人で作業しないことが重要だと感じた。

実技講習では、真っ直ぐにビードを形成することができず難しく感じた。この要因として、溶接棒を動かす速度が速いとの指摘を受けた。適切な速度を把握し、安定してビードを形成するためにも、継続的に練習していきたい。

6. 特記事項

アーク溶接特別教育修了証